



第21-22号

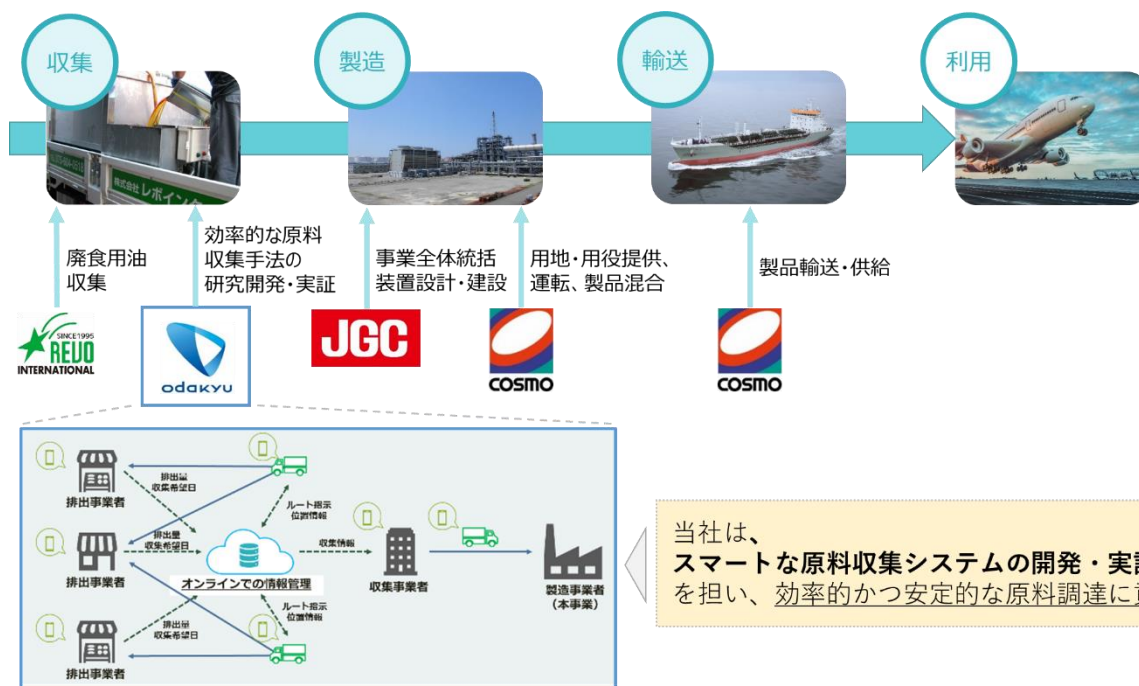
2021年8月2日

日揮 HD らが進めるバイオジェット燃料製造サプライチェーンモデル構築事業に参画 効率的な原料収集手法の研究開発・実証業務を担います！ ～当社が有する一般廃棄物収集業務の効率化ノウハウを応用～

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）は、日揮ホールディングス株式会社（以下、日揮 HD）・株式会社レボインターナショナル・コスモ石油株式会社・日揮株式会社（4社を総称して以下、日揮 HD ら）が研究開発を行う、「国産廃食用油を原料とするバイオジェット燃料製造サプライチェーンモデルの構築」（以下、本事業）において、廃食用油の収集業務の効率化に向けた研究開発およびその実証を担います。

本事業は、国際航空分野における CO₂ 排出量削減に向けた具体的取組として挙げられる「石油由来のジェット燃料を、バイオジェット燃料に変更していくこと」を目標としたものです。このバイオジェット燃料の製造サプライチェーンの構築にあたっては、いかに原料を大量かつ安定的に収集するかが肝要であり、当社は、効率的な収集手法に関する研究開発を担います。

具体的には、この廃食用油の収集段階において廃食用油の排出元からの任意のタイミングで収集リクエストを受け付け、集まったリクエスト情報から最適な収集ルートを生自動生成し、スマートデバイス等を通じて担当ドライバーへ共有することができるシステムを構築することで、効率的な原料収集の実現および収集量の安定化等を目指します。



バイオジェット燃料製造サプライチェーン（上段）と当社の役割（下段）

当社では、神奈川県座間市と連携し、2020年8月から一般廃棄物収集事業における収集業務の効率化をはじめとしたサーキュラーエコノミーに関する取り組みを推進し、効率的な廃棄物収集において一定の成果を上げるとともに、そのノウハウの蓄積に努めてまいりました。このノウハウは廃食用油の効率的な収集の実現にも応用可能であることから、本事業に参画する運びとなりました。

なお、本事業は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募した助成事業「バイオジェット燃料生産技術開発事業／実証を通じたサプライチェーンモデルの構築」に日揮 HD らが提案した事業が採択され実施するものです。当社は、日揮 HD から、効率的な原料収集手法の研究開発・実証業務を受託し本事業に参画します。

当社は、鉄道を中心としたまちづくりと高い親和性があるサーキュラーエコノミー事業に力を入れて取り組んでいます。住みよいまちづくりにあわせ、“廃棄物”を“資源”として供給する「循環型社会」を構築するとともに、そのノウハウの他エリアへの展開や他分野への応用によるビジネス化への挑戦を推進します。

本事業における当社の取組概要は下記のとおりです。

記

- 1 取組内容 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募した助成事業「バイオジェット燃料生産技術開発事業／実証を通じたサプライチェーンモデルの構築」に採択された、日揮 HD らが進める「国産廃食用油を原料とするバイオジェット燃料製造サプライチェーンモデルの構築」事業の中で、当社は原料となる廃食用油の効率的な収集手法の研究開発・実証を担います。今年度は、小田急グループが運営する施設・店舗等と連携し、実データに基づくシミュレーションや小田急沿線エリアでの実証実験を進めていきます。また、本事業に賛同し、廃食用油の収集に協力いただける排出事業者とのネットワークを広げていきます。さらに、2022年度以降は、本格的な収集体制の構築を目指し、フィールド実証を推進していきます。
- 2 事業期間 2021年度～2024年度（予定）

以上

【参考】

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募した助成事業「バイオジェット燃料生産技術開発事業／実証を通じたサプライチェーンモデルの構築」とは、航空業界における地域温暖化対策の一つとして、バイオジェット燃料の導入による二酸化炭素排出削減を目指すものです。

想定する将来の製造規模を実現し得るバイオジェット燃料製造技術を軸に、将来の事業化を見据えた規模での燃料製造および供給に係る空港納入までのサプライチェーンモデルを構築する実証事業を実施します。バイオジェット燃料のサプライチェーンの早期確立を図り、2030年頃までの確実な事業化の実現に資する取り組みです。